

安倍元首相が、参議院選挙の街頭演説中、銃撃され、亡くなられた。この一週間、マスコミは連日、総力をあげて報道している。日本において、銃によるテロなどはもはや起こり得ないと思っていた。しかも、元首相の殺害だから、国民、そして、世界の関心を集めたことは当然である。政治的発言の機会を奪った民主主義への挑戦である。起こしてはならない事件で、容疑者・山上徹也の蛮行は断じて許されるものではない。安倍元首相の政治信条への恨みはなく、旧統一教会に恨みがあり、その団体に安倍首相が繋がっていると思って犯行に及んだと報道されている。そうすると、政治的意味合いはなく、「怨念」が犯行の動機となる。いずれにしても、犯行の動機を明らかにしてもらいたい。予期しない死を迎えた安倍元首相の逝去に哀悼の意を表したい。

日本では「死者をムチ打たない」という美しい言葉がある。死者に敬意を払うことは礼儀である。しかし、安倍元首相のこれまでの言動を持ち上げ、褒めちぎる報道に少なからず違和感を持っている。褒めちぎった報道と同情票が選挙で、自民党の勝利をもたらした。与野党が接近している国会で、緊張ある議論が政治をまともにするのではないか。長期一強の安倍政権は日本のあり方を著しく歪めた。今回の凶弾がもたらした与党の勝利が、今後の日本の政治に与える悪影響を危惧している。

私は安倍政治を評価できないと思っている。まず、疑義を持つのは安保法制である。集団的自衛権の行使を可能にする法制化は、法学者の多くが憲法違反と言い、また、多くの国民は反対したが、これらを見做し、多数決で強行採決した。特定秘密法、共謀罪の抱き合わせで、戦争をする国にした。戦後、守りぬいてきた専守防衛という国是を覆した。

モリカケサクラ問題では、丁寧な説明をすと言いながら、何の説明もなく、疑惑を残したままである。権力の私物化、そして、権力による捜査とメディアへの妨害を見る。森友問題で「自分が関係していたら、総理を辞める」と言った言葉が、公文書の改ざんを生んだ。改ざんを命じられた赤木俊夫氏は良心に苦しみ自死された。彼の自死は重い。

アベノミクスによって、経済的な活性をもたらしたと言う。しかし、現実には、際限のない金融緩和政策によって、日本の借財は一千兆円を超え、次世代に莫大な負担を負わせている。市場に出回った円によって株価は上がったが、それは、裕福な人を潤しただけで、貧富の格差は広がるばかりであった。金利を上げられず、円安になり、物価は高騰し続け、貧しい人たちは困窮を極めている。アベノミクスはアホノミクスであった。

外交に貢献し、日本の存在感を世界に示したと言われる。どんな貢献をしたのか。トランプが米国大統領に選ばれた時、就任式の前に訪ね、防衛省の意見を聞かず、米兵器の爆買いに走っている。ロシアのプーチン大統領とは二十何回も会談し、北方四島の返還に希望を持たせたが、プーチンに体よくあしらわれたに過ぎない。仲良しならば、ウクライナ侵攻を咎める忠告をしてもらいたいものだ。「類は友を呼ぶ」と言うが、安倍元首相の友は、自己中心のトランプ、プーチンであった。

安倍元首相は、美しい言葉を語り、一見力強く見えるが、内実は、強権的な手法で事を計り、味方と敵を分け、味方のみを優遇し、分断する政治家であった。政治は力強く見ると、それを支持、期待することがしばしば見られる。マスコミは安倍政治に対し、負の側面も正確に報道すべきではないか。安倍元首相の逝去は日本の右傾化に歯止めがかかると考える人も多々あるだろう。力に頼るのではなく、時間をかけてもよいから、国民と共に歩む、真の民主主義を培う政治に成熟していくことを心から望む。